

石と町とアタシと

～あきねえ便り～ 9月号

9月、もうお彼岸ですね。日中はまだまだ日差しが強く夏の疲れも癒えないというのに、夕方になるとさらさらとした涼しい風が秋の訪れを感じさせます。空を見上げると、高く薄く広がるうろこ雲が、カタチを変えながら楽しませてくれます。よし！もう少ししたら、赤く色付く山々を見ながら温泉にいこう！

こんにちは！アタシあきねえです♪

父を亡くした時、お寺のご住職に言われた言葉がきっかけになり、銀行員を辞めて「石材ケア」の道に。太い腕と、頑丈な体を武器に(!?)お墓の汚れと向き合う毎日を送っています。

◆◆◆今月のピックアップ 黒ズミ◆◆◆

お墓の上台や中台の目地の周りに必ずつく黒ズミ。水アカと言う方もいます。雨が空気中の汚れやホコリ等を石の上に乗せて、少しずつ積もっていったものと考えられます。場所(環境)と年数と石種によっても、硬さや汚れの度合いが違ってきます。今月は、白御影石と黒御影石の黒ズミ除去の例を取り上げ、比較してみました。

わが、八月の案件です。



お墓をいつもキレイにしていても、簡単には落とせない汚れ…これが黒ズミです。黒ズミってなに？なんでつくの？防ぐ方法や、取り方はないの？アタシ自身いつも考えまわ…

ある墓地で、毎日お墓参りにいらしてお掃除しているお墓を拝見しました。キレイなんです。二十年経過しているなんて信じがたい。そう、汚れが付着する前に拭きあげたら、汚れが黒ズミとなって固まることはないのです。

大切なのは、日頃の手入れ。とはいえ、毎日洗い流すことは簡単なことではありませんよ…。



あまりにスッキリしてお客様も思わず笑顔♪

施工後

施工前

表面の荒れは直せませんが黒ズミは落とせます！

ココまでなると、さすがに気になります…(>_<)



施工前

施工後

くすみがひどく白っぽくなくても、洗浄後はツヤが戻り木目もハッキリ!(^o^)/

最後に、お盆にお仏壇やお位牌をお掃除した方必見です！お手入れが難しく、なかなかキレイにならないとお悩みではないですか？



施工後

施工前

比べてみると字の周りの違いがハッキリ！

黒御影では黒ズミが白っぽく見えます。

デリケートな黒御影石の黒ズミも「このおキレイ」でできますー！

墓石クリーニングの女

「進さん、貴方を残して先に旅立った芳子を許してください。」

進とは、アタシの父で、芳子とはアタシの母だ。この手紙は、母が亡くなって一週間目に父宛に届いたもので、祖母からのものだった。心にガツンときた。

母方の実家は山形の田舎ではあったが、祖父は地元の名主で、祖母は黙ってひたすら仕える働き者の女だった。

孫のアタシから見ると、おじいちゃんとはとても偉い人で誰も彼に逆らえず、妻とは子を産み旦那様に仕える存在で…なんとなく理不尽に映った。

そんな2人も年老いて、最期の時を迎えようとしていた。アタシは亡き母の代わりに看病しようと決意、仕事を辞めしばらく山形で暮らすことにした。

祖母がこの頃、「長生きしたっていいことはないよ…子供を先に亡くすことほど辛いことはない。」と本音をつぶやいた。あの気丈な手紙をどんな想いで書いたのか、少し理解した。「おばあちゃん、傍にいながらあなたの娘を助けられなくてごめん。」言葉にできず心の中で詫言った。

祖母は、最後まで祖父の心配をして先には逝けないと言いつつ、無理を言って同じ病院の同じ部屋で闘病していた。が、とうとう別れのときが来た。祖父がアタシに2人のベットを近づけてくれと言った。そして、今まで妻に優しい言葉などかけた事のない彼が「トミ、ありがと。」と、泣いた。みんな、泣いた。

彼女は報われた。誰かのためにひたすら尽くし生きることの尊さを感じた。アタシは、この2人の孫で産まれたことを感謝している。そして、2人の旅立ちの時に立ち会えたことは、母が仕組んだことだったのかも…と思う。人は死ぬ。でも、残されたものの中でずっと生きている。

彼らのお墓参りにはなかなか行けないけど、アタシは墓石クリーニングの女。誰かの想いを受け止めながら、これからも洗い続けたい。

TakeShoコミュニケーションズ株式会社

〒338-0824
さいたま市桜区上大久保 9-16
TEL 048-699-9731
FAX 048-699-9730

●たけしょうHP

・石材・木材ケアメンテナンス
・墓石リフレッシュ

ハウスリフレッシュで検索
墓石クリーニングで検索

ブログ「墓石クリーニングの女」はHPから入れます。今回の話は8/16の日記から抜粋したものです。

墓石ケアアドバイザーの「あきねえ」と、浦野明子までお気軽にお電話ください！
お見積り無料です♪

